

令和7年度 地域を志向した研究 成果報告書

テーマ		小学生を対象にした看護大学における体験型学習プログラムの効果			
研 究 組 織	代表者	所属・職	看護学部・助教	氏名	丸山 始美
	連	所属・職	氏名	所属・職	氏名
	携	看護学部・講師	菅原 清子		
	研	看護学部・助教	浅原 久恵		
	究	看護学部・教授	荒井 孝子		
織	者				
研究の目的、内容、方法、研究成果、今後の課題等		<p>【目的】看護大学が地域の小学生とその保護者を対象に実施する体験型学習プログラムが、小学生の職業理解や進路意識に与える効果を検証することを目的とした。</p> <p>【方法】地域在住の小学生とその保護者を対象に、看護師の体験型学習プログラムを実施した。プログラムでは、心音・呼吸音の聴取、手洗い体験、赤ちゃんの抱っこ、採血体験などの看護技術の体験に加え、講義や看護学生との交流機会を設けた。アンケート調査を実施しプログラムの満足度や看護師への興味の変化について評価した。</p> <p>【結果】参加者は小学生18名とその保護者であり、小学生・保護者ともにアンケート回収率は100%であった。プログラムの満足度は、小学生では「満足」17名、「やや満足」1名、保護者では「満足」8名、「やや満足」2名と、いずれも高い満足度が得られた。また、小学生の体験の楽しさについては、「とても楽しかった」13名、「楽しかった」4名と大半が肯定的に評価していた。体験内容としては、手洗いや採血体験、赤ちゃんの抱っこなど具体的な看護行為への関心が高く、多くの児童が複数の体験を「楽しかった」と回答した。さらに、看護師の仕事への興味については、「とても興味をもった」7名、「興味をもった」8名と、約8割以上が肯定的な回答を示した。一方で、「看護師になりたいか」という質問では、「とてもになりたい」1名、「になりたい」8名、「どちらともいえない」8名と、興味の高まりは認められるものの、進路選択としては今後の発達段階に依存する傾向がみられた。</p> <p>【結論】看護大学における体験型学習プログラムは、小学生の看護師という職業への理解を深め、興味・関心を高める効果があることが示唆された。特に、具体的な看護行為の体験や看護学生との交流は、職業を身近に感じる機会となり、肯定的な学習体験につながったと考えられる。本取り組みは地域に開かれた教育活動として、地域の子どもの職業観形成を支援する意義を有する。今後は、長期的な影響を検証するフォローアップ調査や、発達段階に応じたプログラム内容の検討が必要である。</p>			

※別途研究成果資料を添付する。

令和 8年 3月 19日提出